

交響詩情

ハンガリー・フランス・ドイツ音楽の午後

▲ かがわ文化芸術祭2017参加公演

高松交響楽団 第118回定期演奏会



2017 11.19 日 開演 14:00

香川県県民ホール 大ホール
(レクザムホール)

主催：高松交響楽団 (TSO)

楽譜協力：トヨタミュージックライブラリー

後援：香川県、高松市、朝日新聞高松総局、産経新聞社高松支局、山陽新聞社、四国新聞社、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、OHK 岡山放送、KBN香川テレビ放送網株式会社、CMSケーブルメディア四国、RSK山陽放送、KSB瀬戸内海放送、CVC中讃テレビ、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、FM 香川、FM815、香川こまち、高松リビング新聞社、ナイスタウン出版

Profile



指揮 井崎 正浩 Masahiro Izaki

1995年ブダペスト国際指揮者コンクール優勝。ハンガリーの国立オペレッタ劇場、国立響、国立歌劇場管等を指揮。1998年サヴァリア響の芸術監督兼常任指揮者就任、ハンガリー国立歌劇場デビュー。2000年ブダペスト・ニューイヤーコンサートを指揮。読響、日フィル、東フィル、東響、東京シティ、九響等と共演。新国立劇場等のオペラでも手腕を発揮。現在ソルノク市音楽総監督及び同市響芸術監督を務める。News Week 日本版(2009年7月)の「世界が尊敬する日本人〜文化の壁を越え異国で輝く天才・鬼才・異才100人」に選出。2009年ソルノク市立交響楽団の来日公演を成功させた。2012年ロシア・ナショナル管弦楽団で客演指揮者としてモスクワデビュー。'13年ベルリン交響楽団、'16年デュッセルドルフ交響楽団へ客演。'15年、ハンガリーにて、文化功労者に与えられる“カボシヴァーリ・ジュラ賞”受賞、同年、ハンガリー政府・大統領名により、現在民間人に贈られる勲章の最上級勲位のひとつである“金十字功労勲章”を受勲。



ピアノ 鐵 百合奈 Yurina Tetsu 2017年第86回日本音楽コンクール2位・岩谷賞・三宅賞

香川県生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高校、同大卒。現在、同大学院修士課程。第86回日本音楽コンクール第2位、岩谷賞(聴衆賞)、三宅賞(特別賞)。ピティナE級銀賞/G級銅賞。日本クラシック音楽コンクール高校の部グランプリ。大阪国際/ローゼンストック国際ピアノコンクール、各第1位。藝大卒業時にアカンサス音楽賞、藝大クラヴィア賞、同声会賞。皇居内の桃華楽堂にて御前演奏を行う。藝大モーニングコンサート、同声会新人演奏会、読売新人演奏会等に出演。論文「『ソナタ形式』からの解放」で2017年柴田南雄音楽評論賞(本賞)を受賞。ヤマハ音楽振興会、よんでん文化振興財団、岩谷時子 Foundation for Youth、各奨学生。ピアノを青柳晋氏ほか、これまでに横島泉、黒田淑子、徳山靖子、大山まゆみ、勝郁子、堀江真理子、杉本安子、菊地裕介、ジャック・ルヴィエ、カールマン・ドラフィー、イシュトヴァン・ラントシュの各氏に師事。



コンサートマスター 福崎至佐子 Hisako Fukuzaki

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巖本真理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチュエフ、徳永二男に、室内楽を故 ルイ・グレーラーの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て1972年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グレーラー氏と弦楽四重奏を組みTV、FM東京、CM、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985年、高松に帰郷し、ゴールドブレインドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターをつとめる。現在、高松大学名誉教授。かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ(KJO)音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成13年度「香川県教育文化功労者表彰」、第42回「四国新聞文化賞」、平成16年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第67回「山陽新聞賞(文化功労)」受賞。平成21年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。第20回(2011年)第23回(2014年)日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞。2016年福山音楽コンクール「優秀指導者」受賞。平成29年度よんでん芸術文化功労賞受賞。

管弦楽 高松交響楽団 Takamatsu Symphony Orchestra



1951(昭和26)年8月、故 緒方益岡氏が県内の有志を募って創立。同年11月香川県公会堂において第1回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を灯す。爾来、半世紀以上に亘る活動を続け、2016年に創立65周年を迎えた。これまで110回を超える定期演奏会をはじめ、県内外での特別演奏会、青少年を対象にした音楽教室の実施、香川県民ホール開館20周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演(2008年)、サンポートホール高松開館5周年記念「カルミナ・ブラーナ(バレエ付き)」公演(2009年)をはじめ、オペラ・バレエ等の他団体や地元音楽家との共演など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。2001年に迎えた創立50周年を機に新たな半世紀に向けた取り組みとして、高響団員を中心に新たに編成された「コレギウム・ムジクム高松」、「高松オペラシティ・オーケストラ」などの多面的なオーケストラ活動を展開している。さらには2001年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ(KJO)」、2003年1月に設立された「丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ(MCO)」への演奏・運営面での全面協力など、地域音楽文化の核ともいえる重要な役割を担う香川のマスター・オーケストラとして様々な取り組みを行っている。1987年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008年、香川県より栄えある第1回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約150名。

皆様、ようこそお越し下さいました。

今回の演奏会では、「交響詩情」というテーマのもと、ハンガリー・フランス・ドイツの3人の作曲家 リスト、サン＝サーンス、ブラームスの作品をお贈りいたします。いずれも深い「詩情」にあふれた名作です。

指揮者には日本国内はもとよりハンガリー・ソルノク市の音楽総監督を務めるなど、国際的活躍も目覚ましい俊英、井崎正浩氏を、2013年の第111回定期演奏会に続き再び招聘いたしました。

ソリストには、今年2017年10月第86回日本音楽コンクール2位・岩谷賞（聴衆賞）・三宅賞（特別賞）の栄に輝いた香川県出身のピアニスト 鐵百合奈さんを招聘し、同コンクール本選でも演奏したサン＝サーンスのピアノ協奏曲第2番を演奏します。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

交響詩「前奏曲」(F.リスト)

フランツ・リストは、長くドイツやフランスに暮らしましたが、出生はハンガリーで、自分がハンガリー人である事に高い誇りを持っていたそうです。ハンガリー狂詩曲等、母国由来の楽曲もたくさん遺しました。当初、彼はピアニストとして世界的に名声を得ましたが、ピアニストを引退後は作曲に専念し「交響詩」という新たな音楽のジャンルを創作しました。交響詩とは「詩や絵画など音楽以外の事を音楽で表現する」というものです。1854年に作曲された交響詩「前奏曲」はその彼の交響詩の中でも代表作で、この曲には、詩人ラルマルティエヌの詩集にちなむ文章が添えられています。「人生は、死が冒頭の厳粛な音を奏するあの未知の歌への前奏曲ではないか。愛の幸せは嵐に遮られ、人は野の静寂の中に思い出を鎮める。だがトランペットが鳴ると闘いに馳せつけ、そこで自分を知り、試そうとする。」この文章に基づいて、リスト自身の人生観も表現されています。楽曲は、第1部：死へと向かう人生のはじまり—愛 第2部：嵐（苦悩） 第3部：田園 第4部：闘いという「緩・急・緩・急」の4部構成になっていますが、切れ目なく演奏されます。



フランツ・リスト
(1811～1886)

ピアノ協奏曲第2番 ト短調 (C.サン＝サーンス)

サン＝サーンスは、フランスの作曲家で、国民的な人気作曲家として活躍しただけでなく、詩、天文学、数学、絵画など様々な分野でその才を発揮しました。詩の分野では、自作の詩による声楽曲も発表したほどです。1868年に作曲されたピアノ協奏曲第2番には、そんな彼の詩的情緒が存分に発揮されています。また、全編にわたって音楽的なコントラストが非常に鮮やかである事も特長です。博識で、引き出しの多かった彼ならではの音楽と言えましょう。作曲家でピアニストであるジグムント・ストヨフスキは「J.S.バッハに始まり、オッフェンバックに終わる」という有名な言葉を残しています。また、先の演奏曲の作曲家であるリストもこの作品を高く評価していたそうです。



カミーユ・サン＝サーンス
(1835～1921)

第1楽章 Andante sostenuto ピアノのみで、憂いのある音楽が厳かに奏でられて曲は始まります。それが最高潮に高まったところで、劇的な管弦楽の和音によって主部が始まります。この楽章は、オーケストラは控えめで、概ねピアノ主導で進み、第1・2主題はともにピアノに提示されます。再現部は管弦楽による第1主題の再現の後に、ピアノの長大なカデンツァが続きます。深い陰鬱さとロマンティックさが格別の味わいを醸し出します。

第2楽章 Allegro scherzando 前楽章とは大分雰囲気異なる、陽気なスケルツォ楽章です。ティンパニのソロが跳ねる様になり響き、それに乗って、ピアノが洗練とした第1主題を奏します。その後、ファゴットやヴィオラが第2主題を奏し、これらの主題が、まるで戯れる様に掛け合い、滑るような軽走を聴かせます。その合間をぬって、ピアノが華やかな音階や分散和音を奏でます。

第3楽章 Presto タランテラ風の動きの激しい終曲です。前の楽章より管弦楽の役割が増し、響きに厚みがあります。嵐のような下降音型の連続に続いて、熱情的な第1主題が出てきます。第2主題は流麗なもので、すぐにトリル音形を駆使した小結尾主題が現れます。展開部は第1主題の展開に始まり、小結尾主題に由来するトリル音形が徹底的に反復されます。3つの主題が折り合わされ、音楽の勢いを緩めることなく、ト短調の主和音を強調して終わります。

交響曲第2番 ニ長調 (J.ブラームス)

ブラームスは、ベートーヴェン・バッハと並ぶ「ドイツ3大B」の一人に数えられるドイツの大作作曲家です。その彼が、オーケストラ用の大作、すなわち「交響曲」のジャンルで、第1作目(第1番)を世に送り出したのは、20年以上の構想期間を経た43歳の時(1876年)でした。作曲する以上は、先人ベートーヴェンの交響曲を凌ぐものではないと考えていたためです。第1番がこれほどの難産であったのとは対照的に、本日演奏する2番は、1番の発表の翌年、1877年に、わずか4ヶ月で作曲されました。ドラマティックで深刻な色合いの強かった第1番とは曲想も対照的で、第2番は全体的に明るく伸びやかな楽想が目立ちます。それは、彼が、オーストリアのヴェルター湖畔にあるペルチャッハという自然豊かな避暑地で作曲の筆を進めたことも無関係ではなかったでしょう。ブラームス自身も、音楽評論家に宛てた手紙に「ヴェルター湖という手つかずの土地では、メロディーが一杯飛び交っている」と書いています。また、ブラームスの親友は、この曲を聴いて「ペルチャッハはどんなに美しいところなのだろう。」と語ったそうです。その曲想の温かみから、この曲は、ベートーヴェンの田園交響曲になぞらえて、“ブラームスの田園交響曲”とも呼ばれています。



ヨハネス・ブラームス
(1833~1897)

第1楽章 Allegro non troppo 冒頭、チェロとコントラバスが、階名で「ドシド」とシンプルな《基本動機》を奏し、それに導かれてホルンが柔らかい第1主題を奏でます。やがて、ヴァイオリンが《基本動機》を展開させた新しい旋律を奏します。こののちに、ヴィオラとチェロによるデュエットで第2主題が奏でられますが、これは、彼の作った有名な「子守歌」に音運びが似ており、歌詞をつけて歌いたくなる様な歌謡的なものです。これらを素材として曲は進みますが、出てきた主題や動機の数々は、4ヶ月(1楽章あたりひと月)で書き上げたとは思えない程、凝りに凝って展開され、力強さ、暖かさ、時に暗さ等様々な感情が表現されますが、日暮れの様な、ものさびしい雰囲気を漂わせつつ、楽章は終わります。

第2楽章 Adagio non troppo 前楽章は日暮れの様に終わりますが、この楽章は、日暮れ~夜の音楽と言えるかもしれません。チェロによる、美しさと陰鬱さの同居した不思議な雰囲気を持つ主題から始まり、それにファゴットが複雑に絡みあいます。その後、のどかな旋律も奏でられますが、陰鬱さを振り切ることはできません。中間部では、トロンボーンやチューバが、ひそやかに少しだけ《基本動機》を奏でますが、前楽章と異なり不気味な雰囲気です。次第に高まり激情的になりますが、冒頭の主題が戻ってきて、あたかも夜のほとりの様な雰囲気を残し終わります。

第3楽章 Allegretto grazioso (Quasi andantino) オーボエの素朴な主題から始まります。この主題も《基本動機》の反行形(楽譜の上下をひっくり返した形)でできているという芸の細かさです。途中、曲は倍速になったり、拍子を変えたりして、心地よいメリハリをつけながら、ウキウキとした気分で楽しく進みます。次第に曲は落ち着いていき、可愛い雰囲気を残しつつ終わり、次のフィナーレ楽章に繋がります。初演時には、この楽章は1番人気でアンコールされたそうです。

第4楽章 Allegro con spirito 弦による第1主題から始まりますが、その冒頭の3つの音は第1楽章の《基本動機》です。最初は、ひそひそ話のような音楽ですが、いきなり爆発し、怒涛の様な音楽になります。しかし、そこはブラームスのこと、突っ走るだけではありません。次に来るのは、ヴァイオリンとヴィオラの朗々とした幅広い第2主題です。展開部では短調になり、瞑想にふけるような雰囲気になっていきますが、第1主題が再び姿を現し、再現部に入ります。ここからが、本当のフィナーレで、トランペットやトロンボーンが第2主題を華麗に再現し、歓喜につぐ歓喜で曲を結びます。

【高響倶楽部法人会員】

社会福祉法人 サマリヤ
香川トヨペット 株式会社
ネットトヨタ高松 株式会社



スタインウェイピアノ 香川唯一正規特約店
有限会社 **高松ピアノ工房**
ピアノ・オーバーホール・調律・修理・レンタル
■ショールーム/
高松市木太町7区3685 TEL:087-833-6049
■工場/
高松市木太町7区3464 TEL:087-833-9433

各種行事の記録ビデオ制作をはじめ映像情報コンテンツの制作なら

株式会社 **よんでんメディアワークス**

TEL (087) 818-1071
FAX (087) 818-1072
URL <http://www.ymw.co.jp>
E-mail info@ymw.co.jp



楽器堂
GAKKIDO CORPORATION
www.gakkido.jp



いい音楽との出会いを大切にします
ピアノ 管楽器 弦楽器 キターベース 打楽器 及び楽器販売
楽器堂オーバサイオンモール高松店
高松市香西本町1-1イオンモール高松1F
TEL : 087-832-8016

楽器に関するご相談、何でも受付中です!